

水中金魚花火が懐かしいのだ号

ブル通信

2307

編集発行人 ブル
ブル通信は発行人が
ブルドッグの様な
顔をしているので
ブル通信としました。

ブル通信は
過去に...

ガッツのお車の
ご購入
ご売却
車検
修理
査定
見積もり

の
どれかをご利用頂いた
お客様に
お送りしています。

知人のが実際に経験した山怪のお話

知人の曰く、山怪って知ってる？ベストセラーになってシリーズ化した本なんだけど、田中さんと言うフリーランスのカメラマンがマタギ（狩猟などで生計を立てている人）とか山里で暮らす人々から直接聞きだした山で起きた奇妙な出来事をまとめた本で、幽霊の話とかそういうことではなくて実際にあった不思議な出来事を取材してまとめているわけ。で、0も趣味で登山とか山奥の溪流釣りとかよく行っていて、ああ、そういうえば不思議なことあったなあ。って事で実際に自分が経験した事と信頼できる友人の話をもとめてしてくれたお話。

① あの謎の生物はなんだったんだ？みたこともない生き物
もう10年くらい前かなあ？溪流釣りに行こうとして早朝、林道を車で走っていたんだよね。まあ溪流と言っても俺の場合、相当山奥まで入るわけ。最近はやってないけど昔はザイルかけて降りるような所まで行ってたから野生動物とは頻繁に会うわけ。サルはほぼ100%会う。釣りにしててなんかザワザワすると思つて上見たら木の上に40〜50匹のサルの群れがいてじつとこちらを見てた。鹿もだいたい会う。その他会った事のあるのはカモシカ、熊が3回、イノシシやテンとか色々な生物に会ったけど一番怖

かったのは深い山の中の溪流でウェットスーツを着たら人くらの密猟者の集団にあったとき、全員小さいモリ持つててあれは怖かった。

そんな中であれはなんだったんだ？

林道を走っていたら右から左に横切った生き物がいたんだよね。真つ黒で異常に手足が長くてもものすごく細い。身長はたぶん130センチくらいかなあ？たぶんサルの仲間だと思うけど見たこともない生き物。林道を横切った後、藪のところまでじつとこちらを見てた。帰宅してからテナガザル？と思つて画像検索したけど全く違つていた。あれはなんだったんだらう？

② 耳元でささやく声

溪流釣りっていうのは基本的に早朝と夕方が勝負になる時間帯なんだよね。で、その日もポイントの近くまできて車で仮眠して朝を待つて深い谷に降りたわけ。釣り始めて30分くらいしたところ、耳元で誰かというか何かというかがずつとささやいてるわけ。言葉じゃないんだよ。ワシユクシユクシって感じで何を言っているのかわからない。最初は気のせいと思つていたんだけどずっと続くわけ。だんだん気持ち悪くなつてきて50メートル上くらいに林道があるんだけど誰がいるのか？と思つておい！って声かけたんだけど当然返事はなし。そりやそうだよ。早朝に林道歩く人なんているわけがないし、いても声が届くわけが

ない。気持ち悪くなって竿をたたんでじっと耳を澄ませたけど間違ひなくささやいているんだよ。川の中を走って逃げて転んで小指を骨折したけど二度とその溪流には行っていない。

③ 前回の通信に登場した友人のボーイラーマンGにあった話。前回の通信に登場した沖縄で女性を口説いていた友人のボーイラーマンG。あいつも昔は一緒によく溪流行っていた。今は足がダメでやめたけどあいつが遭遇した話。

その日、奴は一人でA県のN川という川に入ったらしい。暫く釣りしていたら何か視線を感じたらしい。ふと後ろを見ると首だけのお爺さんが笑って奴を見ていたらしいけど、怖いから自分に気のせいと言い聞かせて釣りを続けたらしい。しかしどうしても視線を感じるから再び後ろをみたら間違ひなく首だけのお爺さんが笑っていたらしく走って逃げたらしいけど、奴がすごいのは翌週、また同じ所に行ったらしい。普通行かないよね。その爺さんがいた所まで来たら対岸の岩が波打って動いていたらしいよ。これはあかんって走って逃げて二度と行ってないみたい。ワシの場合、基本的には幽霊とか信じてないけど山の中にはまだまだ未知の世界があるということだよ。山怪、面白い本だよ。

これが日本の正しいバーベキューの炭の火おこしのやり方だあ！

思い起こせばあれはもう20年以上前だったと思うわけだが、ある後輩を連れてホームセンターで買ったばかりの3980円のテントを持ってキャンプに行ったらわけであつた。初めて買ったテントでとても嬉しくて、後輩には俺はキャンプのプロだ。全て任せておけ！くらいの講釈をさんざん垂れて川遊びをしたり1日楽しく過ごして夕方、その日のメインの行事であるバーベキューに取り掛かったのだ。

あった。当然、バーベキューは炭火で肉を焼くというのがキャンプの定番であり、火おこしにかかったわけであるが、何をどうしても火が起きない。後輩にはキャンプのプロくらいに言っていたが炭火なんて簡単に起きると思っていて、着火剤も持ってきてきかない。悪戦苦闘すること1時間くらい。ついに火を起すことが出来ず、隣でキャンプしていた人から火をわけてもらいバーベキューをするという大失態を演じ、大恥をかいいたことがあったのであった。

今でもトラウマとなっていて本通信読者諸氏においてはそのような失態を演じることなく、着火剤を使わず涼しい顔で鼻歌でも歌いながら炭に着火していただき、プロのごとくふるまって欲しいという願いから本記事となった次第である。

まず用意するのはさりげなく新聞紙を20〜30枚車に放りこんでおくのである。いざ、キャンプ場についてバーベキューとなったら鼻歌でも歌いながら新聞紙を2センチくらいの棒状になるように丸めて10本くらい作るのである。この時同行した人にはへつ、着火剤を使うなんて邪道だぜ。と呟くのをわすれないように。この棒を井桁、つまり交互に四角く組み上げていくのである。だいたい6段は必要である。この仕掛けが出来たら炭をまわりにおくのであるが、炭は縦におくようにするのである。なぜなら炭に煙突効果を持たせるのである。これで準備完了。

これが出来たら火のついた新聞紙を井桁の真ん中に投入。あわてずあおぐ必要はなくしばらく待っていると新聞紙の炎が自然と炭に移っていくのである。この時の注意ポイントとしてはどれほど暑くても顔に汗をかいてはいけないのである。涼しい顔で鼻歌でも歌いながらやるのがプロっぽく見えるポイントなのである。まあ着火剤を使えば簡単に火は起きるのであるがそれではあまりに芸がなく、人々から羨望や尊敬のまなざしで見られないのである。しかしながら万が一のことを考えて着火剤を隠し持っていることは悟られてはいけないのであった。